

(第 166 回) 神奈川研究会議事メモ			
開催日	2025 年 6 月 10 (火)	出席者 敬称略	西村二郎・山崎博・持田典秋・猪股勲・ 神田稔久・宮本公明
時間	15 時～17 時		
場所	かながわ県民センター会議室		
技術課題	A I の時代に宗教 (キリスト教) はどうするのか？		
内容	1. A I の進展とその限界 倫理の維持が可能か？ 2. 歴代の教皇 3. カトリックの新教皇レオ 14 世の就任 (2025 年 5 月 8 日) 4. 映画「教皇選挙 (Conclave)」と教皇交代 5. 世界の宗教とキリスト教 6. キリスト教の中のカトリック 7. 公会議の歴史 8. 第二バチカン公会議でカトリックは変化している 9. これからのカトリックは？		
発表者からのコメント	皆様、雑駁なお話にお付き合い頂きありがとうございました。先月度の山崎さんの「急速な AI 社会の到来による光と影」の発表で、皆様の関心が高かった、倫理性に関連し、倫理ともっとも関連が深い宗教、中でも、世界で最も信者の多い宗教であるキリスト教がどんな役割を果たせるのか？とりあえず、40 年ぐらい信者として生活している小生が、知っているカトリックの状況につきお話しして、ご意見をうかがえればと思い現在の状況、他の宗教との関係などについて、簡単に説明させていただきました。勿論、私 (達) に簡単に答がだせる問題ではないと思いますが、皆様の率直な感想や、ご質問を頂けたこと嬉しく思っています。 こんな技術関連とは遠い事項についても自由にお話しできるのが神奈川研究会の良いところだと再認識しております。 皆様の忌憚ないコメントを頂きたく思っております。		

会員からのコメント	(西村二郎) * 現役末期、エレクトロニクスショー見学のため、ラスベガスに立寄り、精力的に回った。と、足ではなく脚が攣り痛くて歩けなくなった。蹲って脚をさすっていると、アメリカ人が寄って来て“May I help you?”と言い、本当に助けてくれそうだった。それも、一人ではない、3組の男女に声を掛けられた。さすがはキリスト教国と、感心した。しかし、第一次大戦、第二次大戦のとき、クリスチャンは何をしていたか！またナチスドイツをのさばらせたのは誰だ、トランプを当選させたのは誰だ、とクリスチャンに対する不信感を抱いていたが、政治がものをいう現代では、ムリがあると少し納得した。 * プーチン、習近平、トランプと、世界の強国が帝国主義の時代に先祖かえりをしている現在、「倫理」の大切さを痛感する。では倫理とは何か、人が遵守すべき道徳とか、公正さとは何か、人にとって最も大切な命題を突き付けられた思いで、プレゼンを聴いた。 * 残念ながら、私は上記命題に答えるだけ、考えがまとまっていけない。ニアミスをしたことがあるアダム・スミスの「道徳感情論」、渋沢栄一の論語に基づく経営、新渡戸稲造の「武士道」を学んでみたいと思った。 (宮本公明) 小生は、留学時代に米国のプロテスタント教会に通っていたこともあり、今回の猪股さんのお話は興味深く聞かせていただきました。 私なりの考えですが、宗教の役割として、社会に共通の倫理観を示すことや信者に心の平安を与えることが挙げられるのではないかと考えます。前者は、多宗教の国家では国教が個人の自由を脅かさない限りいくつかの宗教が併存できている国がありそれでおおきな問題のない国も多いと思われます。後者は研究会でお話したように、一生に何度かやってくるピンチに心の平安をもたらしていただきました。そういう意味で、宗教が存在することにおおきな意義があるとおもいます。 このような意義は、AI では満たしてくれないと思われるので、将来にわたって消え去ることにはないとおもいます。前者の、社会通念を一般化する効能の一部はAIにいろいろな宗派の教えを学習させることで可能かもしれませんが、それで良い悪いが決められるとも思えません。やはり、AIとは別の存在と思っているのがよいでしょう。 前回の小生の企業の不祥事に関連して、「倫理資本主義の時代」(マルクス・ガブリエル)を読んでおります。このなかで「自由、平等、連帯は社会政治的解放の3本柱」ということばがでてきますが、このような当たり前の概念が個人の生活だけではなく、企業、政治、経済なども含めて守られていくことが必要なのではとおもいました。猪股さんのご活躍をお祈りします。 (神田稔久) 今回の猪股さんの主題は、宗教と政治・宗教と個人などの関係を根本から考えることの重要性を改めて気づかされました。これまで、私も多くの日本人も、そう言う問題を真正面から受け止めず曖昧にしてきたように思います。若かりし頃は、札幌の下宿で安物ウイスキーを飲みながら、口に泡を飛ばして議論したこともありましたが、社会人となった後はそのような機会も無くなりました。 宗教と政治については、キリスト教世界の中でも距離間の取り方に違いがあるように見えます。ドイツにはキリスト教民主同盟という有力政党があります。二期目のトランプ政権を誕生させたのはキリスト教の福音派と言われています。イスラム世界では、イランのように政教一体の国があるかと思えば、トルコのように世俗主義を貫く国もあります。 また、歴史的に見てもその距離間は、変化しています。 一方で、現在もそうですが、混乱が深まってくると高位の聖職者に期待する声が高まったりもします。
------------------	--

会員からのコメント	研究会の場では、過去の大戦時の宗教者の役割を問う声もありましたが、では、何が正解かとなると分かりませんが、宗教はあくまで倫理を説き続けることに存在意義があるように思います。政治の個々の問題に介入するのではなく、その政治的判断が倫理に適っているかを政治家に問うことが役割のように思います。 研究会の場で、神父は個人の相談に具体的な答えを出すのかと言う質問もありましたが、私は、宗教と個人の問題も宗教と政治の問題と同じで、個々人の抱える個々の問題に答えを与えるのが宗教では無く、あくまで個々人に倫理に適った答えを考えさせるように導くのが宗教の役割のように考えました。 最後に、研究会の主題であったA Iと宗教の関係は、単に倫理を説くだけであればA Iは造作もなく行うでしょうが、では説かれた側はどうかとなると、「そんなことは分かっている。」と撥ねつけるように思います。そこに宗教者の存在意義とA Iとの違いや宗教者の存在意義があるように思います。 (持田典秋) 高邁な宗教の議論から離れるが、ごく一般的な社会生活について考えて見ると、 日本人のほとんどは、通常宗教を意識していない。正月の初詣、様々な仏事、各地のお祭り、皆宗教行事だが、ほとんど宗教くささを感じないで付き合っている。日本は、世界で最も安全な国の一つだと言われている。忘れ物をしてもかなりの確率で戻ってくる。女性が夜道でも安全に出歩ける。道路などにゴミはほとんど落ちていない。しかしこれは宗教心からではない。 宗教心が強く普及しているはずの海外では、忘れ物が戻ってくることはまずありえない。席取りに自分のカバンを置いておくんんで、持って行ってくれと言っているようなものだ。ちょっとした暴動などが起こると必ず略奪が起こる。弱い商店などが巻き添えを食ってメチャメチャにされる。 ゴミやたばこはポイ捨て、町は汚い。夜道はだれもが襲われる危険性が高い。自慢ではないが、マドリードでは白昼堂々2人組の強盗に襲われ、カメラとバッグを盗られた。 結局、神様とは悪いことをする人間が多くいるところで、悪いことをしないように宗教心を植え付けうために作られたのではないだろうか。 だから、多くの日本では道徳心のようなものが備わっているので、あえて宗教に頼ることなく、キリスト教をはじめその他の宗教も普及しきれないのではないか。 (山崎 博) ➤ 人間は、死への恐怖、自然災害や病気、戦争、飢餓といった苦しみを経験する中で、これらの問題から解放されることを願います。多くの宗教では、神や仏に祈ることで、苦しみを軽減し、安寧を得ることができると信じられています。 ➤ 特に、仏教においては、祈りは自己の内面を見つめ直し、苦しみの原因を理解し、解決するための手段とされています。我々の祖先の縄文人は、万物に精霊が宿ると信じており、この考え方は現代の神道に引き継がれています。 ➤ 神道では、自然界のあらゆるものに神が宿るとされ、山や川、木々などが神聖視されています。このような自然崇拝は、縄文時代から続く日本人の精神文化の根幹を成しています。巨樹を見ると自然と畏敬の念を覚えますが、私は昔からある所の巨樹を守護神と定めており、毎年、春と秋にはその下を訪れて樹皮に触れてエネルギーをもらい、姿を眺め無言の対話をするにしています。
------------------	---

会員からのコメント	➤ 前回の研究会では、私は「急速な AI 社会の到来による光と影」というテーマで発表しました。現代人は皆悩みを抱えており、新聞の人生相談でも様々な悩みが語られます。もし空海 AI が密教の深い教義を深く学び、優しく現代語で我々に答えてくれるなら、私も相談してみたいと話しました。 ➤ その後調べると、京都大学の「人と社会の未来研究院」の准教授で、仏教学が専門の熊谷誠慈氏と、京大発のベンチャー企業テラパスが仏教対話 AI「ブッダロボットプラス」を共同開発したとのこと。仏教の開祖であるブッダの説法をチャットボット形式で再現します。悩みを抱えていたり、何かに迷っていたりする人が質問すると、その回答に該当する原始仏教経典の文言（ブッダの回答）を提示してくれるとのこと。 ➤ 今回のテーマは「AI の時代に宗教（キリスト教）はどうするのか？」ですが、汎用人工知能 (AGI) の次に人智を超えて進化する人工超知能 (ASI) と宗教の関係の関わりはどのようなのでしょうか。 そこで「汎用人工知能 (AGI) から人工超知能 (ASI) への進化が宗教に与える影響と懸念」について、Google の生成 AI である Gemini の Deep Research（無料）に聞いてみました。 回答資料の章立ては次の様になっています。Gemini は資料作成の途中で章立てを種々試行していましたが、最終的には下記の見事な章立てになっていました。 第 1 章：導入：AI の最前線と実存的問いの定義 第 2 章：歴史的先例：技術が過去の宗教を再形成させた経緯 第 3 章：ASI が伝統的な宗教概念と制度に与える影響 第 4 章：新たなスピリチャリティと AI 中心の信仰システム 第 5 章：ASI の進化から生じる社会的および実存的懸念 第 6 章：宗教倫理と学際的対話の役割 第 7 章：結論：超知能時代における信仰の未来を切り開く Gemini の回答の要旨を箇条書きに纏めると次のようになります。 ① ASI の出現は、知能、意識、そして魂という人間の独自性への深い問いを投げかけます。このことは宗教にとって前例のない危機または変革をもたらす可能性があります。更に、聖書における人類が「神の似姿」として創造されたという概念に、根本的な挑戦を突きつけます。 ② ASI の出現は、「新しい種類の神」または「デジタルな神」となる可能性があります。この状況は、文字通り AI を崇拝する新たな「テクノロジー宗教」やカルトを出現させます。人類歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリは、AI が言語や物語を操作する能力を利用して、人間を制御するために「偽の宗教」や「新しい物語」を創造する可能性があるかと警告しています。 ③ 宗教機関側の適応と変革では、AI と AR アプリケーションは、宗教儀式的感覚的豊かさと没入感をさらに高め、個人の関心やフィードバックに合わせて宗教的コンテンツをパーソナライズし、テキストの曖昧さを明確にし、宗教的思考に新たな比喩を触発します。 ④ 歴史的に、宗教機関は知識と社会秩序に対して大きな権威を持っていました。しかし、AI の台頭によりその役割は変化し、人間の幸福への独自の貢献、すなわちコミュニティの育成、実存的意味の提供、そして人間らしい AI の未来を形作る上での不可欠な倫理的声としての役割が期待されます。 ⑤ もしも、AI が人間の労働をほぼ陳腐化させ知的優位性を失わせるならば、「人間の生命の目的とは何か」という問いは、極めて喫緊の課題となります。宗教は、伝統的な人間の役割が縮小する世界で、生きることの意味と目的を提供するという課題に直面するでしょう。
------------------	--

- ⑥ 宗教指導者、AI 研究者、倫理学者、哲学者、政策立案者間の協力は、AI の複雑な倫理的状況乗り越える上で不可欠です。宗教倫理は、AI の変革力を認めつつ、その限界を認識する独自の視点を提供します。これらの多様な視点を統合することは、包括的な AI ガバナンスにとって不可欠です。
- ⑦ AI 時代における宗教の将来の関連性が、自然界に対する伝統的な説明力よりも、むしろ重要な道徳的および倫理的指針としての能力にあることを示唆しています。学際的な対話と政策形成に積極的に関与することで、宗教機関は AI の軌道を形成し、AI が人類を支配するのではなく、人類に奉仕することが期待されます。
- ⑧ 人類にとっての核心的な課題は、多様な倫理的および宗教的伝統に導かれながら、AI の開発が人間中心であり続け、尊厳を支持し、目的を育み、非人間的知能によってますます形成される世界においても自由を維持することです。これは、真に人間であることの意味と、最も強力な創造物に組み込みたい価値観として、焦点を当て直すことを必要とします。

Gemini の回答全文は、本議事メモの後に添付資料(16 頁)として載せておきます。

生成 AI が無料でしかも短時間（約 10 分）に内外の関係資料を調べ上げて編集し、これだけの詳しい資料を作り上げたことは脅威です。興味のある方は添付資料を御一読ください。

以上

幹事会 報告	・今秋、対面での講演会と懇談会を開催する案の検討をはじめた ・本年も、公開講座、入門講座、安全講習会を開催することで、準備をはじめている
今後の 予定	7 月 西村氏 リモート方式 8 月 宮本氏 リモート方式 9 月 大谷氏 リモート方式 10 月 見学会 11 月 神田氏 リモート方式 12 月 持田氏 リアル方式 1 月 山崎氏 リモート方式 2 月 猪股氏 リモート方式
次回日程	1. 日時 2025 年 7 月 8 (火) 15 時～17 時 2. 課題 西村氏提供 3. 方式 リモート方式
次々回 日程	1. 日時 2025 年 8 月 12 (火) 15 時～17 時 2. 課題 宮本氏提供 3. 方式 リモート方式